

会報「技術士しぞーか」

公益社団法人 日本技術士会 中部本部 静岡県支部
事務局連絡先 Phone : 080-9194-4715 E-mail : ipej-shizu@ipej-shizu.sakura.ne.jp
支部長 : 加藤信之 事務局長 : 松世麻理子 会計 : 小澤 靖 広報 : 須永浩介



撮影 : 須永 浩介

2025年5月26日 静岡県

目 次

◆ 支部長挨拶（支部長 加藤信之） 新年度に向けての抱負です。	P2
◆ 2024 年度-第 6 回 CPD 講演会報告 テーマは『事例から学び・考え・伝え聞く「技術者倫理」』です。	P3
◆ 2024 年度 地区例会報告 東部・中部・西部の地区例会報告になります。	P4-5
◆ 静岡県信用保証協会協定覚書調印式 報告 静岡県信用保証協会と中小企業支援に向け覚書締結についてです。	P6

表紙の写真説明

撮影場所：静岡県掛川市下西郷 84 番地

撮影者：須永 浩介（2025 年 5 月 26 日）

【龍尾神社のホームページより】

龍尾神社は古くは龍尾山牛頭天王と称し、延喜式内社「真草神社」が当社であるとの言い伝えもありますが、定かではありません。

御鎮座の創始は不明ですが、宝治二年（1248）時の地頭職 忍十郎義広が記した『遠江国旧社詣』中に「みなひと ふかきねがいを かけがわの たつのおやまの かみのみずがき」なる歌があり、この時すでに龍尾山に御鎮座されていた事がわかります。

又、永正二年（1505）には掛川城築城にあたり城内（龍頭山）に御鎮座されていた神社をも龍尾山に御遷座合祀されました。以後別当寺として神宮寺が建立され、掛川城守護神として山内一豊公をはじめ歴代城主の崇敬をあつめてまいりました。

支部長挨拶

皆さんこんにちは、静岡県支部支部長の加藤信之（電気電子部門）です。日頃から静岡県支部の運営に対しご尽力くださった皆様に感謝と敬意を表します。

さて、2021年度より支部長を仰せつかりまして早4年となりました。2025年の選挙結果を受けて支部長を継続することになりましたが、振り返りますと、いろいろな仕事があり毎日忙しく過ごさせていただいております。昨年度は静岡県信用保証協会様との覚書締結など、新たな社会貢献活動にもトライすることができました。これからも継続して社会の皆様のお役に立てよう活動を進めていきたいと思います。

支部長継続に当たっては、下記の項目について継続して進めていきたいと思います。詳細は年次大会資料をご覧くださいませようお願いします。皆様の引き続きご協力頂きますようよろしくお願いします。

(1) 静岡県支部および技術士会の会員増加

現在の講演会はインターネット経由のWebセミナー形式と、会場講演の同時ハイブリッド開催が一般化しています。これは、世界中どこにいても参加できるメリットと、会場で人脈作りが可能となる2つのメリットを成立させる方法です。グローバルに静岡県支部の活動をアピールできればと思います。

日本技術士会の将来を担う次世代の会員を増やす活動を進めたいと思います。コロナ禍以降各種CPDイベントは対面式とWeb配信のハイブリッドで実施しており、遠方の会員や多忙な会員がWebで参加できるよう会員の皆様へ貢献ができたと考えています。しかし、対面式で参加する会員が減少したため、技術士同志の人脈が確保しにくい状況が発生しています。これは、次世代の技術士会を担う人材確保ができずにいることにつながります。ハイブリッド開催は継続しつつ新たな会員を増やすため、会員が会場参加したくなるようなイベントを考えていきたいと思います。また、今年度だけの短期では定着まで短すぎるため、来年度以降も活動を継続していく予定です。

そもそもですが、母体となる技術士自体の人数も増やす必要があるため、社会との接点であるホームページやSNSの充実を図り、技術士のアピールも進め、技術士になりたいという若い世代のエンジニアも増やすようにしたいと思います。

(2) 「産学官と技術士の合同セミナー」対応

2025年12月に「産学官と技術士との合同セミナー」を静岡で開催するので、セミナーを成功に導くよう活動を進めていきます。テーマは「防災」として実施し、自然災害伝承碑をうまく利用した防災について考えていきたいと思います。詳細はこれから詰めていきますが、技術士として防災で社会に貢献できる方法を見つけていく所存です。そして、関係各方面に開催を宣伝していきます。

(3) 地域社会への貢献

理科授業支援やテクノロジーカフェを通じて、技術を一般の方々に理解しやすくする活動は従来通り継続します。また、静岡県は地震や風水害などの災害が多い地域のため、災害が発生した時の技術援助はもちろんのこと、災害を最小限に抑えるべく防災教育などを通じて、地域社会に積極的に貢献していきたいと思います。この活動は、産学官と技術士の合同セミナーでも扱い、より役立つ方策を考えていきます。

最近コロナは一段落しているように見えますが、コロナ以外の感染症も次々に発生してきているように聞こえます。引き続き感染症にはご注意ください、イベント会場で対面できることを楽しみにしています。

今後とも技術士会静岡県支部ご支援をよろしくお願いいたします。

(支部長 加藤信之)



3月蓼科にて 今年もスキー頑張ります(^^♪

静岡県支部 第 6 回講演会(2025 年 2 月 22 日)

1. 概要

日時：2025 年 2 月 22 日（土）

13:10～16:30

参加者：会場 19 名 遠隔（Web）24 名

テーマ：

事例から学び・考え・伝え聞く「技術者倫理」

講演 1：

「企業不正・不祥事から技術者倫理を考える」Ver3

講師：TSURU 総合技術・安全コンサルタント事務所

所長 鶴田 忠志氏

講演 2：「価値観の真意を探る 事例紹介」

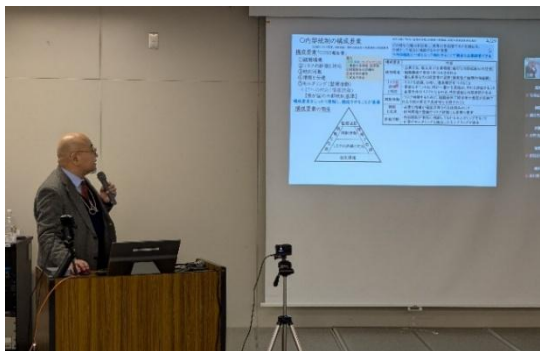
講師：馬淵技術安全建築事務所

所長 馬淵 大幾氏

2. 講演内容

講演 1：講師の鶴田氏はトヨタ系部品会社出身のエンジニアである。今回は、トヨタグループの内面からの視点で企業の不祥事はなぜ生じるのか要因について説明いただいた。

そもそも、これだけコンプライアンスにうるさく言われている世の中にもかかわらず、不正・不祥事はなぜ起きるのか。ライバル企業に対し優位を保つためには、技術、製品のレベルアップが必要だが、従業員の技術力がそれに追いついていない場合は会社内の上司などからのプレッシャーを受けるため偽装や改ざんなどに走る場合があるとのこと。また、それは、過去から長期にわたり継続してきたため、若手社員にとってはそれが普通のことだと認識してしまうことが非常に危険である。不正を未然に防止するためには「不正のトライアングル」（機会、動機、正当化）を踏まえて対策を考える必要がある。担当者は信念と法令遵守を持ち、会社はそれを達成できる環境を整備する必要がある。私たち技術士も技術者倫理に基づいた行動をしなければならない。



講演1(鶴田講師)



講演2(馬淵講師)

講演 2：建築業界では上棟式に「おかめさん」を飾り工事の無事を祈るのが通例だが、実は…ということから話が始まり、最初から最後まで面白く聴講できた。

次に、以前ニュースで話題になった国立市の「富士見通り」に建てたばかりのマンションを解体したことについての説明があった。景観は地域住民の宝物であったのに、法令遵守すれば地域住民の感情を無視しても構わないと判断してしまった。周辺への検討不足、狭い視野・集団思考が問題を発生させてしまった。次は「地面師」の話。土地購入などの際の稟議決裁が通常と違い先に社長決裁を狙われた。そのため、実担当が正常な判断ができなくなり現物の確認を怠ってしまった。地面師はそのような弱点を狙ってくるので普段から注意して行動すべきである。

最後は講師の倫理的後悔の紹介があった。ここでもいわゆる「自虐ネタ」の紹介で聴講者から笑いの声が聞こえた。

3. 所感

講演 1 では企業の不正・不祥事を例に挙げ、その原因と対策を解いていただいた。技術者倫理を持つことにより、不正を働かないようにし、不祥事を起こさせないと学んだ。

講演 2 では企業が犯罪の被害に遭った事例などを解説いただいた。損害を出さない、犯罪の被害に遭わないためにも倫理観念に基づいた思考が必要であると学んだ。

今回、講師の方ご本人の「私の倫理的後悔」をお話いただいたが、多かれ少なかれある自身のこれまでの倫理的後悔を顧みる良い機会になったと思う。社会の一員として、技術者倫理に基づいた行動をしていきたい。

(記：小澤 靖)

2024 年度 地区例会報告

東部地区例会

2025 年 3 月 1 日（土）会員同士の懇親を深めることを目的に、今回東部地区例会は「沼津まちなか歴史散策と沼津駅前ビール醸造を学ぶ」をテーマに、会員 9 名が参加して開催しました。

最初に沼津郷土史研究談話会幹事 高島茂樹様を講師に迎え、江戸時代後期から明治維新にかけての歴史を紐解き、沼津駅近くの城岡神社～沼津城本丸跡～旧東海道～大手門跡～丸馬出門跡と散策しました。沼津城は以前の三枚橋城を利用して安永六年（1777 年）に水野忠友が築城しました。水野忠友は NHK 大河ドラマ「べらぼう」でも描かれる田沼意次の重商主義政策を支えて老中にまでなりましたが、意次の失脚に伴い力を失ったとのことでした。改めて当地の安永から慶応までの時代を学び、沼津の歴史に触れる良い機会となりました。



城岡神社にて（筆者撮影）

次に Masters Brewing 沼津駅前醸造所に伺ってクラフトビールの醸造を学びました。麦芽粉碎～糖化～ホップ投入～麦汁分離～イースト（酵母）投入～発酵～熟成の工程を経て、様々なビールが醸造されます。

最後に、美味しい新鮮なビールを堪能し、楽しい有意義な交流の場を締めました。参加いただいた会員の皆様、有り難うございました。



沼津駅前醸造所（筆者撮影）

（記：土井俊幸）

中部地区例会

2025 年 3 月 1 日（土）に中部地区例会を開催しました。路線バスで片道 1 時間弱かけて、静岡の奥座敷「オクシズ」にあるガイアフロー静岡蒸溜所と、そこで取り組んでいる再生可能エネルギー開発装置に参加者 8 名で見学しました。

ガイアフロー静岡蒸溜所では、粉碎、糖化、発酵、蒸留、熟成というウイスキーの製造工程を一通り見学後、試飲やお土産の買い物を楽しみました。

ガイアフローには世界初の静岡産日本杉製の発酵槽があります。また、世界で唯一と言われる、薪の火で蒸留する蒸留機があり、使用する薪は地元の林の間伐材を用いるなど、静岡の素材にこだわった製造を行っています。

また、蒸留機は薪直火加熱と蒸気間接加熱の 2 種類、大麦麦芽は日本産と外国産の 2 種類を用い、それらの組み合わせで 5 種類のウイスキーを製造しているそうです。

その後、会員の岡井氏の案内で、再生可能エネルギー開発装置を見学しました。製造工程で出る大麦の絞りかすからメタンガスを抽出し、燃焼させて火力発電を行うことを目指しているそうで、現状は、メタンガスの回収率を上げるため、メタンを生成する細菌を調整しているそうです。

最後に新静岡セノバの蕎麦鷹乃で懇親会を行いました。活発に意見交換し、有意義な時間を過ごせたと思います。ご参加いただいた皆様ありがとうございました。



ガイアフロー静岡蒸溜所 入口にて

（記：松世麻理子）

西部地区例会

2025 年 3 月 25 日に西部地区の例会を実施しました。5 名の会員で浜松市の花の舞酒造を見学しました。酒造り現場を見学し、製造過程の僅かな違いが味や風味に影響することを説明して頂きました。また、異なる味・風味の酒を各種試飲させ頂き、微かな違いを実感することができました。

また、日ごろ顔を合わる機会が少ない会員同士の親睦も図れ、有意義な例会となりました。さらに、現地までの交通機関の天竜浜名湖鉄道は、昭和の雰囲気漂い、沿線の田園風景と相まってタイムスリップしたような感覚で、楽しい例会となりました。



花の舞酒造 入口にて



製造工程②



説明を受けている様子

(記：馬淵大幾)



製造工程①

地区例会について

静岡県支部では年 4 回の講演会と年 1 回の見学会があるが、社会情勢の変化に伴って見学会候補となる企業の減少傾向や、講演会の参加員数が 20 名を割る少ないときも時折見受けられたので、平成 7 (1998) 年より例会開催を県の東部・中部・西部別の例会を年 1 回実施している。(創立 50 周年記念誌より)

地区例会は 2019 年 (令和元年) 末からの新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の流行によって活動が停止していたが、2022 年度から活動が再開されている。

静岡県信用保証協会と中小企業支援に向け覚書締結

2024年10月30日（水）静岡県信用保証協会と静岡県支部は中小企業等への技術支援に関する覚書を締結しました。同日、同協会の吉林章仁会長、県支部の加藤支部長が出席して、静岡市葵区の同協会会議室にて調印式が執り行われました。

中小企業の経営支援、創業支援、事業承継等に力を入れる静岡県信用保証協会に、幅広い技術分野で最先端の知見を持つ技術士が連携して、地域産業の活性化の一助となることを目指します。県支部は過去にも社団法人中小企業診断協会静岡県支部、静岡商工会議所、公益財団法人静岡県産業振興財団と中小企業支援に関する覚書を締結していて、今回で4件目になります。今回のスキームでは、同協会の中小企業の経営支援等において技術評価が必要となった際に、県支部は同協会の要求に応じて必要な技術を有する技術士を派遣し、同協会と連携して中小企業の支援に当たります。

県支部としては、地域産業の活性化や自治体の施策に対する支援による地域貢献、技術士活動の活性化を通じ「技術士」の価値向上につなげることが主な狙いです。今後とも外部からの技術支援等の依頼には積極的に応えていきたいと考えています。

引き続き、県支部の皆様のご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。



締結式写真

(記：事業開発委員長 土井俊幸)



龍尾神社入口